

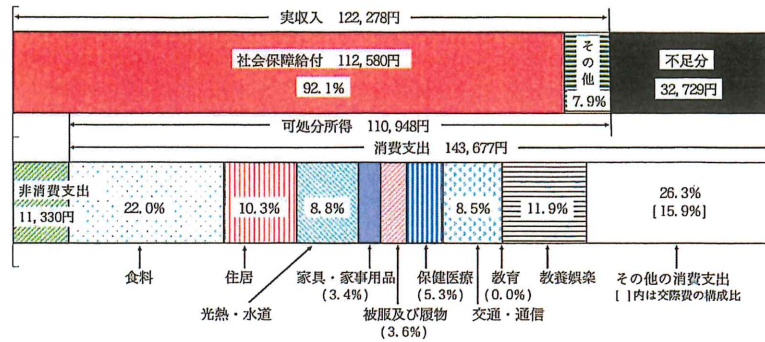
(2) 60歳以上の単身無職世帯

可処分所得及び消費支出は実質減少、平均消費性向は低下

60歳以上の単身無職世帯の実収入は122,278円で、前年に比べ実質0.9%の減少となった。

また、可処分所得は110,948円で、実質0.8%の減少となり、消費支出は143,677円で、実質0.9%の減少となった。その結果、平均消費性向は129.5%で、前年に比べ0.2ポイント低下した(図Ⅱ-5-3、表Ⅱ-5-2)。

図Ⅱ-5-3 60歳以上の単身無職世帯の家計収支—平成20年—



(3) 高齢夫婦無職世帯

可処分所得は実質減少、消費支出は実質増加、平均消費性向は上昇

高齢夫婦無職世帯(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦1組のみの世帯のうち世帯主が無職の世帯)の実収入は226,043円で、前年に比べ実質0.4%の減少となった。

また、可処分所得は193,385円で、実質0.5%の減少となったが、消費支出は242,773円で、実質0.6%の増加となった。その結果、平均消費性向は125.5%で、前年に比べ1.3ポイント上昇した(図Ⅱ-5-4、表Ⅱ-5-2)。

図Ⅱ-5-4 高齢夫婦無職世帯の家計収支—平成20年—

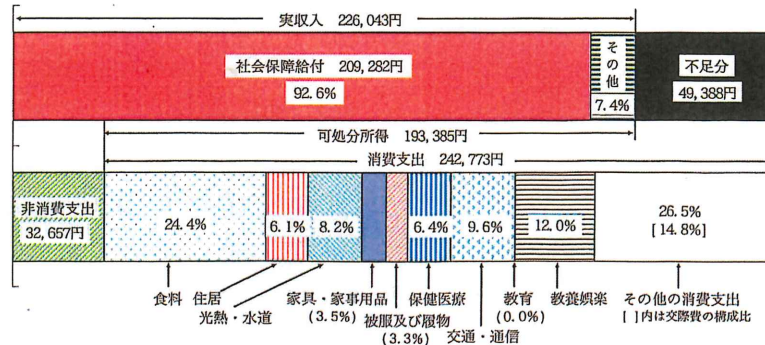
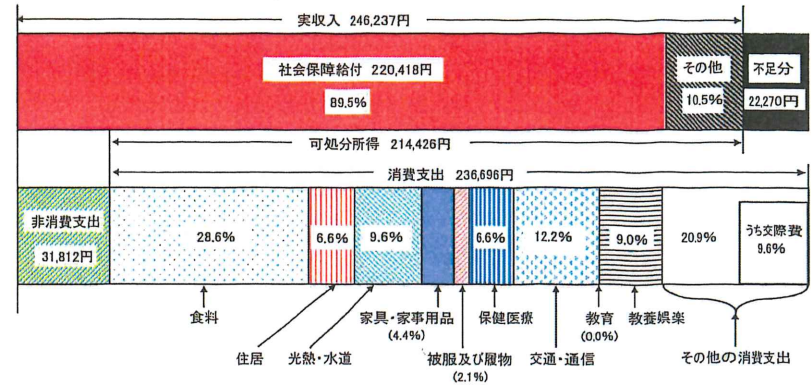
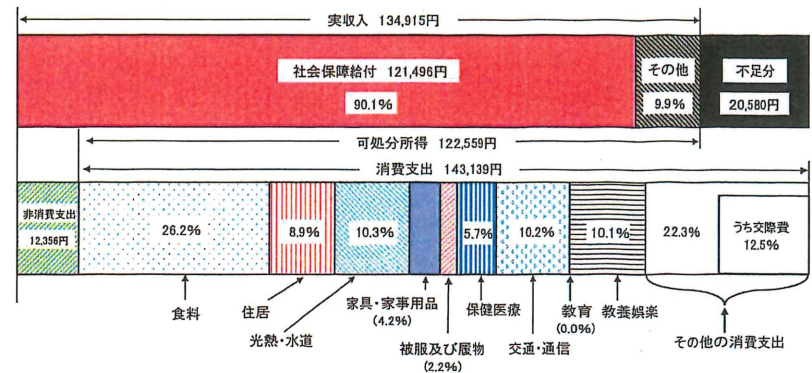


図1 65歳以上の夫婦のみの無職世帯(夫婦高齢者無職世帯)の家計収支—2022年—



- 1 図中の「社会保障給付」及び「その他」の割合(%)は、実収入に占める割合である。
- 2 図中の「食料」から「その他の消費支出」までの割合(%)は、消費支出に占める割合である。
- 3 図中の「消費支出」のうち、他の世帯への贈答品やサービスの支出は、「その他の消費支出」の「うち交際費」に含まれている。
- 4 図中の「不足分」とは、「実収入」と、「消費支出」及び「非消費支出」の計との差額である。

図2 65歳以上の単身無職世帯(高齢単身無職世帯)の家計収支—2022年—



- 1 図中の「社会保障給付」及び「その他」の割合(%)は、実収入に占める割合である。
- 2 図中の「食料」から「その他の消費支出」までの割合(%)は、消費支出に占める割合である。
- 3 図中の「消費支出」のうち、他の世帯への贈答品やサービスの支出は、「その他の消費支出」の「うち交際費」に含まれている。
- 4 図中の「不足分」とは、「実収入」と、「消費支出」及び「非消費支出」の計との差額である。